

全国学力・学習状況調査のCBT化に向けた令和4年度試行・検証について

令和4年度予算額：54百万円
(前年度予算額：50百万円)

概要

○全国的な学力調査のCBT化検討WG「最終まとめ」を踏まえ、**令和6年度からの順次CBTの導入**に向けて、令和3年度以降、試行・検証により課題の抽出とその解決を繰り返し、段階的に内容等を拡充させながら、着実な実現へつなげる。

【参考】令和3年度試行・検証 概要

- ・実施規模：119校、10,734人（各学校単位での実施）
- ・検証内容：初期段階の実証研究で確認すべきと考えられる事項
(ネットワーク・システム、実施体制、問題、端末操作、文字入力等)

令和4年度試行・検証内容

○実施規模

- ・10程度の複数自治体（市町村）の小中学校の児童生徒

○主な検証事項

- ・全国規模での実施に向け、山間部や島しょ部を含み、自治体単位で実施する場合の実施方法や学校支援方策等の検証
- ※ 特にICT環境に関する最低動作環境及び推奨動作環境等を明らかにする。

（１）実施方法の検証

- ・自治体単位で同日一斉または複数日に分散して実施する場合のシステム・ネットワークや実施面の検証

※システム・ネットワークの検証については、「CBTシステム（MEXCBT:メグビット）の拡充・活用推進事業」と連携予定

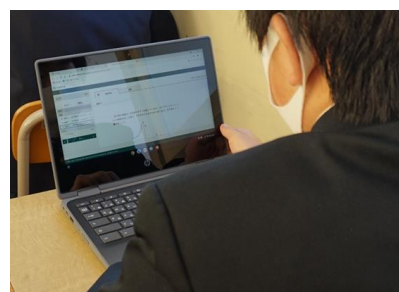
（２）学校支援方策の検証

- ・学校や学級、児童生徒の単位でそれぞれ生じる技術的トラブルへの対応方策の検証
- ・実施にかかる作業の効率化（動画マニュアル等）
- ・特別な配慮が必要な児童生徒への対応 等

（３）問題の検証

- ・記述式、口述式「話すこと」など、様々な解答形式の検証
- ・児童生徒の問題解答における文字入力状況の検証 等

＜CBT実施イメージ＞
[令和3年度試行・検証より]



スケジュール等

- ・令和4年10月～11月 実証自治体の実施可能な日時で試行・検証を実施
- ・令和5年～ 試行・検証の結果を踏まえつつ、令和5年度中学校英語「話すこと」調査や児童生徒質問紙調査オンライン実施へ活用。